

令和4 年度 園評価書

園番号 31 園名 八幡こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A :よくできている B :概ねできている, C :あまりできていない, D :できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	園評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標など)
心身ともに豊かな子	それいいね! 「いいね」がいっぱい	やさしく ～関わる力～ ・子ども達の揺れる気持ちに受容的に関わることで安心感を与え、「いいね」を見つけ認めたり、友だちの良さにも気付ける関わりで努める。 ・保護者と一緒に職員が心地良い挨拶の手法を示している	コロナ禍や耐震工事で不安定にならないよう、表情やしぐさなどを丁寧に見取って、安心感につなげるよう努めてきた。それぞれの職員がそれぞれの立場から一人一人丁寧に関わり肯定的に受け止めて、安心して好きな遊びを楽しめるようにしてきた。また、保育者が「いいね」と子どもの良いところや頑張っていることを、タイミングを逃さずに認めてきたことで、子ども達の意欲や自信、自己肯定感を高まりにつながったり、友だちの良さを見つけ、認め合う姿につながることができた。保護者と共に笑顔で心地よい挨拶を行うことができた	A	A	・子ども自ら挨拶してくれ、日頃から挨拶する習慣が身に付いていると感じた ・生活発表会などで自分の得意な事を披露する場があり、親が自分の子どもの「いいね」を感じられ、成長を共有することができた ・今年度、耐震工事があると聞いた時は不安がありました。子どもたちは工事中でも普段どおり過ごしていた。 ・園内に入ってくる工事車を見て喜んでいたり、散歩に出かける機会がいつも以上にあったことで、工事の進捗状況を伝えてくれたり、散歩で見た物の話をしてくれたり、子どもなりの楽しみ方をしているのか伝わってきた	・引き続き、様々な友だちの良さを認め合う関わりを大切にし、その中で自己肯定感を高め、安心してのびのびと遊びを展開できるように関りに努める ・遊びの中で自分の考えを伝え合い、繰り返し試行錯誤しながら取り組む姿を認め、大切にしていく ・遊びの中で夢中になって遊べる環境を提供し、子どものつぶやきや気づきを受け止めながら、感じていることを言葉や行動で表現できるように関わっていく ・保護者と連携を図りながら子どもの生活リズムが身につくように丁寧に進める
		はつらつ ～遊びの芽～ ・遊びの中の育ちを見極め、夢中になれる環境を提供していくことで、子ども達の気付きや自発性を引き出し「いいね」と認めて価値付けている	年間を通して一人一人の子どもから出てくる「つぶやき」に耳を傾け、発想や面白い気づきを逃さず「いいね」の声かけをして認めていくようみんなで取り組んできた。定期的な会議の中で、子ども達の姿や興味関心について理解を深め、自分から「やりた」と思い、夢中になって遊べるよう教材研究を行ったり、子ども達が自由に使える自然物や廃材を用意したり、発達に合わせた教材、素材の提供を行うことに努めた。	A	A		
		たくましい ～生活する力～ ・自分のことを自分でしようしたり、自分で考え判断して行動しようとする姿を「いいね」と認め定着につなげたり、生活リズムを身に付けるために保護者と連携を図りながら丁寧に関わっている	自分のことを自分でやろうとする姿を見守ったり、待つことを大事にし「できた!」という達成感を感じられるよう関わってきた。一人一人の様子に合わせてタイミングよく「いいね」と認める声かけをすることで、子どもの自信につなげ、子どもの頑張りや成長を保護者と共有し、子どもができることを増やしてきた。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	園評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標など)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	職員間で連携を図り、大きい子に憧れの気持ちを持ったたり、小さい子に遊びを伝承したりできる環境を工夫し、コロナ禍でもできる交流機会を生み出していく	異年齢交流の機会を生み出す工夫をし仲間に入れる雰囲気作りを通して、生活や遊びの中で自然形での交流を大切にできた。職員間でその時々でのコロナの状況に応じて検討し、運動会、ウォータフェスティバル、夏祭り、八幡山探索、発表会等の取組みが行えた。日々の園庭遊び(団子作り、色水、泡作り、伝承遊びなど)では「やってみよう」と異年齢の友だちが真似をしたり、刺激を受け自然に関わり交流をしている。子ども達の製作物を飾ったり、年長児発信の夏祭りや発表会の練習を見せ合ったりする中で、年下の子が年長児への憧れを持つ場とすることができた	A	A	・園で異年齢児との様々な関わりがあるので、小さい子への関わり方を自分なりに考えて、行えるようになってきていると感じた	・生活や遊びの中では、今できている異年齢児との自然な関わりを継続していく。これまでコロナ禍で表現できなかった意図的な異年齢交流の機会を大事にし実践していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切に、安心して園生活が送れるようにするとともに保護者への発信を積極的にしている	園便り、クラス便りやボードでは写真などを使ったり、乳児は連絡ノートなどで園の様子を分かりやすくし保護者への発信を行っている。登園時には家庭での様子を聞きとった内容を職員間で共有し、それに合った関わりをしている。生活リズムが気になる子の保護者には、個別に声をかけ状況を把握し、園と家庭でできることを探り丁寧な対応に努めてきた。	A	A		・引き続き、園便り、クラス便り、ボード、連絡ノート等で発信していく ・家庭の状況やそれぞれの子どもに合わせた対応も継続して丁寧に、職員間で共通理解のもと同じ対応や支援が行えるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの遊びを見取り、思わず「こうしてみたい」と思える素材の提供や声掛けをタイミング良く行うなど、子ども達が思いを実現させる経験が積み重ねられるように努めている	保育者が一緒に遊ぶ中で子どもの思いをくみ取り、声かけやタイミング、素材の提供ができるよう日誌などで振り返ることで、子どもの思いを実現できるよう努力している。0歳児から5歳児までの環境構成を共有できるように、職員間で遊びの環境や園庭環境図などの作成時に教材を検討し合っている。コロナの影響で遊びが途切れ、つなげていく苦労もあったが、活動を継続発展させ思いを実現させた夏祭りや迷路遊び、おかげごっこ、劇遊びなどでは「もっとこうしたい」と思うことを実現できる保育が積み重ねられた。	A	A		・日々の遊びをよく見取り、予測される遊びの展開を職員間で共有し、必要な素材、教材を用意していく ・子どもの思いや遊びの過程を大切に提供の仕方、声掛けについて実践、考察、記録をしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な状況を想定して訓練を行う中で、自ら考えて行動し危険を回避する力が育つよう指導している。ヒヤリハットに取り組み、分析を行うことで事故防止につなげている	毎月の避難訓練、土曜保育、早番遅番時などでは、耐震工事下の避難方法など、様々な状況を想定した訓練を行い、課題を見つけ職員会議で検討し改善を次回の訓練へとつなげている。子ども達は自分の身を守る意識が高まるように、年齢に応じて分かりやすい言葉で伝えたり、日常目にするところにイラストを掲示したり視覚教材を使って、分かりやすい指導を意識してきた。ヒヤリハットの取り組みをし、事例の共有から事故を未然に防いだり、職員間の意識向上につなげられた。	A	A	・コロナ禍や自然災害、耐震工事など、園は様々な事が起きても、その都度、子どもたちの安全な対応を考えて運営を行っていると感じた	・引き続き、様々な訓練の実践から見えた課題の改善策を検討し、次へと活かしていく ・ヒヤリハットを継続しながら職員一人一人の危機管理への意識をさらに向上させていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い、咳エチケットを実施し、感染予防につなげたり、食育や保健活動を通して自分の健康への意識を高める援助をしている	感染対策としての消毒や換気、密を避けるなどは継続的に働きかけ取り組んでいる。子ども達の手洗い、咳エチケット、うがいの方法を一緒に行う中で身に付くように繰り返し働きかけ、感染予防として自主的にマスクを着けたり、食事中のおしゃべりを控えるなどの姿が見られていた。食育活動や栽培経験を通して食への関心が持てるようにし、毎月の取組みをボードや食育便りで保護者へ発信してきた。	A	A		・状況に合わせた感染対策を継続していく ・食育活動や栽培、クッキングなどの年間計画を立て実践していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	支援を必要とする子どもの特性や対応について、園全体で共通理解し関わっている	子どもの個性や園での様子について、ケース会議などで話し合い、子どもが困っていることを共有することができた。職員が子どもにも視覚支援やタイマー、ご褒美シールなどを活用し、できるようになったことを認めることに努めた。子どもに同じ対応ができるように、子どもの状況を分析しより良い手だてについて検討するなど、全職員で同じ対応を意識し関わるよう努めた。	A	A	・園の子どもたちと支援児との関りでは、多様性をお互いを認め合っていて、先入観がみられないと感じた	・サポート強化事業などの研修やきりんの会の学びを職員間で共有していく ・引き続き、気になる子の姿を職員間で話し合い、支援方法について多面的に検討していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	リーダーを中心に責任を持って各分掌に取り組むとともに、互いに協力し合って円滑な園運営につなげている	年間計画を基に各分掌担当が定期的に進捗状況を確認し、反省や今後の活動についても把握して、円滑な運営ができていた。コロナ禍による行事の予定変更などが度々求められたが、声を掛け合い、協力し合って仕事を進めることができた。	B	A		・前年度の反省を活かし各分掌に年間計画に反映させて、職員が協力し合い、見通しを持って園全体で活動していく
6 研修	(1)研修体制の充実	遊びマップや園庭環境図を作成し共有したり、エピソード記録の記述や検討、公開保育、事前事後研修の実践を通して「つながるひろがる環境づくり」を目指している	年間計画で公開保育を進め、事前事後研修で保育の視点に基づいて、一人一人が活発に意見を出し合うことで、学びを深め「つながるひろがる環境づくり」を意識し、保育の見直しを行っている。公開保育後に研修内容を掲示し、研修だよりを作成して、職員間で学びを共有する工夫をしている。毎月の会議でエピソード記録やクラス便りと共に伝え合うことで、クラスの状況や子どもの様子を共有する機会となっている。遊びマップや園庭環境図を作成、共有することにより、環境づくりや教材研究にもつなげられた。	A	A	・職員間がタイミングよく先々を見通して環境整備を行ったり、園庭の環境図を作って話し合うなど、一日の忙しい中でも、話し合いを大切にしていることが理解できた ・園の保護者は職員研修をどのように行っているのかわからないので保護者に知らせて行くといい	・全職員で取り組む意識を持ち、研修に参加できない職員にも、タイムリーに発信していく ・研修で学んだことを日々の保育に活かしていき、学んだことを職員間で共有し保護者にも発信していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子ども達の好奇心や探求心を育むために、外部講師やボランティアの協力を得て、八幡山の自然を活かした活動や様々な体験が積み重ねられるようにしている	外部講師の協力を得て、異文化交流や八幡山探索、囲碁教室、堆肥作り、栽培、海の生物教室など、コロナ禍でもできる範囲での様々な活動を企画し実践してきた。職員の知識を増やし、子ども達に遊びの提供や発信につなげることもできた。秋からは、八幡山神社や園周辺の散歩に出かける機会が多くなり、親子遠足で八幡山散策をすることで、保護者に日頃の取組みを知ってもらった機会となったり、色々な自然物の採集、観察などの体験から遊びに取り入れることができた。	A	A	・八幡山の下見に何度も訪れ、環境の教材研究を行っている。それが充実した保育につながっている。 ・親子遠足はコロナ感染対策を行った上で2年ぶりに実施できたことを評価。目的地を八幡山にしたことで、日頃子どもたちが訪れ遊んでいるからこそ色々な事を知っていて親に教えてくれる姿が見られた	・得た知識や体験を職員間で共有した上で、園内や八幡山の自然を活かし、四季折々の自然物に触れる機会や体験を計画的に取り入れていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	自分の身の回りのことを自分でしようとする姿を認めたり促したり、家庭と共に取り組んで、子ども達の生活習慣の獲得を目指している	大人の見守りの中、自分からできることをやろうとする姿を認め、できないところはさりげなく手伝い、小さな「いいね!」をたくさん見つけ、できることを増やす関わりで努めている。生活リズム同様に頑張っている様子やできるようになったことなどを連絡ノートや送迎時に伝え、喜びを共有して次への意欲へとつなげたり、必要に応じて家庭へも協力をお願いしてきた。	B	A	・保護者アンケート結果から、乳児の保護者には、地域との交流の様子が伝わっていないように感じるので、幼児の交流の様子を発信したらどうか。引き続き、コロナ禍でもできることから取り組んでもらえるとう嬉しい	・引き続き園での取り組みについてわかりやすく、見やすいボードを作成していく ・子どもの成長や様子をタイムリーで伝え、保護者と一緒に子どもを認めていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育や授業に積極的に参加したり、コロナ禍での近隣園児同士、小学生との交流を大切に持ち方を工夫して実施している	コロナ禍ではあるが、できること方法を探り、職員が他園の公開保育や小学校の公開授業や職員協議会に参加したり、自園の公開保育に他園の保育者を受け入れ、職員間で学ぶ機会を持った。年間度小黒こども園との交流を計画し実施したり、森下小学校の運動会の練習を見学したり、年長児が一年生との交流を図ることができた。	B	A		・公開保育を実施し他園や小学校教員に参観してもらったり、他園の公開保育に参加して学んだり、授業参観を通して子どもの育ちや課題についての共通理解を図っていく ・近隣園や小学校の子ども同士の交流計画を実施に繋げる
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロン、園庭開放など子育て支援の取組みを積極的に行ったり、園児の地域の方との交流、ボランティアの力を借りた活動など、園だけではできない経験を大切にしている	コロナの状況を見ながら、おしゃべりサロンを実施し、歯科衛生士や栄養士を招いての話ができる機会を提供したり、園庭開放を行い地域の子育て支援に努めた。散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わすなど、地域の方に子ども達の姿を発信し交流を図ってきた。囲碁教室を始めとする地域ボランティアの方々との交流や3年ぶりのいきいき教室でお年寄りとの交流機会を大切に、取り組めた。	B	A	・地域のお年寄りとの交流では、互いに良い刺激をもらえたと思う。色々な行事が復活してきていて「いいな」と感じた	・おしゃべりサロンへの参加を呼びかけ、地域の方への子育て支援や楽しい遊び場の提供を意識して取り組んでいく ・地域の自治会やお年寄りとの交流は感染症対策ができる活動から実践していく